

第1回 基本計画選定小委員会

議事要旨

- 日時： 平成17年1月28日（金）18:30～20:30
- 場所： 豊島区第4会議室
- 出席者： 金井利之（東京大学助教授）、四阿知子（一般公募）、伊藤榮洪（教師）、粕谷一稀（評論家）、高橋明宏（一般公募）、三井菜摘（一般公募）
以上出席者6名（敬称略）

（1）小委員会の進め方について

■対象とする事業について

- ・ 800もある事業すべてを審議するのは不可能である。区側が事業に関する情報を多く所有しているので、区側で800の事業を重要な50～100程度に絞っていただきたい。
- ・ この委員会を進める上での大きな問題は膨大な作業量である。これをいかに効率的に進められるかが大きな課題である。
- ・ 約800ある事業は「手段の手段」であり細かすぎるので、このレベルではなく、もう少し大きなレベルで議論するのが効率的で効果的であると考えます。
- ・ 来年度に向けてどういう事業を新たに実施する必要があるかを個別に議論すると半年後にまた方針転換をしなければならない状況もありうるので、重点化する点などの「方針」を打ち出せると良い。
- ・ 事務局が実施する1次評価については、まず対象事業のいくつかを選定して、予備調査を行ってはどうか。その評価結果を見て、評価項目の見直し、どうすれば重要な事業が浮き上がってくるのかなど、方針を決めてから全体の評価を実施すればいいのではないかと。最初から800程度あるすべての事業を評価する必要はない。
- ・ そうであれば、体系の「1. すべての人が地域で共に生きていけるまち」について次回までに予備調査として実施する。（決定）

■運営上の取り決め

- ・ この委員会でランク付けの方針を定め、事務局に作業をお願いし、その後、事務局案をもとにこの小委員会で最終的な審議をし、全体会に諮るといった流れがよいのではないかと。
- ・ 運営方法で確認しておきたい点として、小委員会の傍聴と議事録の公開がある。これらについては傍聴すること、公開することによいか。（決定）
- ・ もう一点運営上の取り決めが必要なのは司会進行役である。本日は便宜的に事務局が担当しているが次回からは誰が担当するかを決める必要がある。両部会長を務めてきた金井委員、渋谷委員のご両人が進行役を担当するというによいか。（決定）
- ・ それでは、今後は金井委員、渋谷委員のどちらかが出席できる日程で調整し、両委員が司会進行を担当することとする。（決定）
- ・ この委員会で提案した内容が、数年後にどういう結果を残したかを報告してほしい。

(2) 事務事業のランクづけについて

■ランク付けの方針

- ・ 事業のランク付けをする際の基準は、事業数ベースなのか、それとも事業費ベースなのか。また、ランク付けの見直しは今後どのくらいの頻度で行うのか。
- ・ 事業のランク付けについては事業費ベースで議論することになる。また、ランク付けの見直しについては、各年度の予算編成の際に一定の見直しを随時行うことになっていくことになる。
- ・ 小委員会の検討結果を全体会に諮る際には、この案は今年案であり、来年はまた見直す必要があるという旨を付帯条件とすればよいのではないかと。今回のランク付けが基本計画期間において不変ではないということである。
- ・ 事務局の作業として所管課に事業の優先順位をつけてもらう際には、基本計画の体系に留意して、基本計画の方針にずれない形で実施してもらうことが重要である。各体系のボリュームを先に示し、そのボリュームの中で各所管課に実施してもらうのがよい。
- ・ 7つの体系はどれも重要でバランスを保つことは全体会で合意を得た事項であるのでこの部分を傾斜するのはおかしいことになる。傾斜配分をするのであれば、施策の方向レベルで実施するのが自然の流れではないか。
- ・ 一度この評価票で一次評価を実施し、その結果を見てから、施策の方向で傾斜配分するのか、事業レベルで取捨選択をするのかを考えればよいのではないかと。
- ・ 1度試しに評価するのであれば、加重をかける必要はないのではないかと。後で加重をかけたり、修正できる体系で整理をしておいて、一次結果が出てから加重等については議論すればいいのではないかと。
- ・ 加重をかけなくとも評価項目ごとの配点自体にウェイトをつければよいのではないかと。

■評価項目について

- ・ 財政再建についての評価は、「事務事業評価票」の評価項目⑤として記載されているので、この部分で評価することになる。
- ・ 効果項目に加えなくとも良いが、単年度事業と、後年に大きな投資がある複数年度事業は分けて考えないと、的確な判断ができない。今回の評価ではよいランクがついても翌年以降にひどい出費があるものなどは現段階でまとめておく必要がある。
- ・ 多年度にわたる事業は投資的事業がほとんどとなるので、それを備考欄で総事業費、事業年度などを記載する。
- ・ 歳入増を図るのも非常に重要な視点であると考えている。豊島区の歳入が増加するような工夫ができるよう努力することが必要である。
- ・ 評価をしていく際には、区民にアピールできる事業や、他の分野に波及効果がある事業などを重要視する必要があるのではないかと。また、基本構想の理念を実現するための基幹事業は財源が不足していても実施する必要がある。

- 例えば児童館や図書館など今後廃止や統合などがささやかれている事業については、今後の動向などは考慮せず、基本的には現時点での評価とする。
- 資料1-3の2ページ目にある三角形の点線の部分にある評価対象外の事業は本日の資料として用意していないので次回に資料として用意する。
- 義務的に実施しなければならない事業は評価対象外とする考えもあるが、義務的な事業の実施の可否は判断できないものの、その内容、やり方を見直すことのできるものはある。また、義務的であるということで配点を高くするという対応もできる。
- 各事業の事業費を調整することは実際の庁内での査定において実施はできるが、この場で前もって実施するのは難しい。全体会にあげる際に、付帯要望として事業に条件をつけるのは可能である。
- 資料1-4の3ページにある「個別評価の項目等」は「AAA事業の選択評価（2次評価）票」と重複するものが多いので、1次評価の際にも一覧表として各委員の目に見える形で整理していただきたい。
- 「個別評価の項目等」を事務事業評価票の「3. 行政による自己評価」の枠に加えるということもできる。
- その事業がボランティアを活用できるかどうか、寄付を募れるかどうかも重要な指標である。これについては評価指標に加えることもできるが、「〇〇することを条件にAランクとする」といった形で、付帯条件として、全体会に返すという方法もある。
- 一昨年度に実施したワークショップの報告書の内容は施策の方向のレベルでは活かす形で整理を進めてきているが、事業レベルまでは反映させていない。今後の方法としては、ワークショップ報告書に記載されているかどうかを評価項目として加えてもよい。

(3) 小委員会のスケジュールについて

- それでは次回の小委員会までに体系「1.」を予備調査として評価していただき、その結果をもとにここで議論して、今後の評価の方向性を決めていきたい。それでは本日各委員から提案のあった項目などを追加して、予備調査の作業を行っていただきたい。
- 次回の日程は2月2日（水）、次々回については2月10日（木）に開催する。時間は本日と同じ18：30頃からの開始を想定している。（決定）

閉会

【配付資料】

- 1-1 計画事業選定小委員会の進め方について（たたき台）
- 1-2 基本計画体系の「施策の方向」ごとの事務事業一覧
- 1-3 事務事業のランクづけ・定義について
- 1-4 計画事業選定にあたっての評価について
- 1-5 選定小委員会スケジュール（案）

(参考) 基本計画の構成

(参考) 「計画事業選定小委員会の運営に関する私見」(金井委員から提出)